

文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究(ホ05)

目的 美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。伝統的に使用されており、科学的な解明が必要とされる材料についての化学的調査を行い、修復現場での明確な適用を検討する。伝統的な技法についての記録やその効果についての科学的解明を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。

成果 1. 文化財の伝統材料と修復材料に関する調査

- ・古典的製法で作製された膠に関する研究

古典的製法で作製された膠の基本物性の測定と現場での使用条件の確立を行った。これらの成果を東京藝術大学陳列館において「膠と修理 - 『序の舞』を守る -」として10月14～19日に展示発表した。

- ・絵画の基底材に関する調査

平成30年度は絵画の基底材の調査を行った。特に、絹糸の断面形状により絵画の彩色効果が異なること、その断面形状が時代によって異なる可能性があることに着目し、非破壊のデジタルマイクロスコープ調査を用いて絵画に使用されている絹の現地調査、及び参照資料の測定や分析を行った。併せて自然布の基底材に関する調査も行った。

- ・漆に関する調査

日本産の漆と東南アジアの漆の塗膜の硬度比較を行った。また、適切な保存環境についての条件確立を目的としてこれらの劣化試験を行い、物性の差異を数値化した。

2. 文化財の修復技法に関する研究

- ・ジェルクリーニング方法に関する検討

油污損の文化財クリーニングへの適用などを目的に、ジェルを使用した場合の現場適用方法を検討した。汚れの除去効果に加え、作業環境の評価も行い、安全な有機溶媒の使用方法を調査した。

- ・11月22日に「文化財修復の現状と諸問題に関する研究会」を開催した。参加者は104人であった。



東京藝術大学陳列館における「膠と修理」展示風景

論文・早川典子ほか：「画絹の物性に及ぼす断面形状・殺蛹方法の影響 - 大和文華館所蔵作品調査データを含めて -」『保存科学』58 pp.1-20 19.3

- ・倉島玲央ほか：「ミャンマー漆と日本漆の塗膜硬さに関する定量的評価」『保存科学』58 pp.95-106 19.3 ほか2件

発表・藤井佑果ほか：「Pemulen® TR-2ジェルを利用した液体汚損クリーニングー油除去作業を例にしてー」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.17

- ・内田優花ほか：「接着剤およびアーカイバルテープの劣化」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.17 ほか8件

研究組織 ○早川典子、佐藤嘉則、倉島玲央、藤井佑果、岡部迪子、山府木碧（以上、保存科学研究センター）、安永拓世（文化財情報資料部）、菊池理予（無形文化遺産部）、本多貴之、酒井清文、貴田啓子（以上、客員研究員）

文化財修復の現状と諸問題に関する研究会 (ホ05の一部として実施)

運営費交付金事業「文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究」の一環として、文化財の現状と問題点に関しての情報共有を目的として研究会を開催した。近年、文化財に対する活用が積極的に推進されているが、それに伴い、修復対象とされる文化財も増加している。その中で、従来の修復方法や修復に対する概念では対応できなくなってきた事例も増加している。

この研究会では、今までの修理の概況に関して共有した上で、現在の修復の際に認識される問題点を分野横断的にご発表いただいた。

日 時：平成30年11月22日(木) 13:30～17:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

主 催：東京文化財研究所

参加者：104名

開会挨拶：佐野千絵(東京文化財研究所保存科学研究センター)

趣旨説明：早川典子(東京文化財研究所保存科学研究センター)

【総 論】美術工芸品修理への思い：佐々木利和(北海道大学)

【各 論】近年の歴史資料修理の成果と課題：地主 智彦(文化庁)

文化財修復の現状と近年の問題点～「十二の鷹」を中心に～：北村仁美(東京国立近代美術館)

平成30年における絵画修理：中野慎之(京都府)

【質疑応答】総合討議(司会：早川典子)

世界遺産研究協議会「戦略的 OUV 選択論」(④コ01の一部として実施)

コ01プロジェクトで行っている諸研究のうち、世界遺産に関する制度と最新の動向についての情報を提供するため、平成29年度に引き続き研究協議会を開催し、外部研究者を含む5名の発表を行った。本年度は、世界遺産委員会で行われた議論等についての報告に加え、世界遺産の推薦書作成にあたって顕著な普遍的価値(OUV)をどのように考えるかについて、様々な立場からの報告を通じて、その実際について知る機会を提供した。

日 時：2018(平成30)年9月28日(金) 13:00～20:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：71名

発表者及び題名：境野飛鳥(東京文化財研究所)「第42回世界遺産委員会の報告」

二神葉子(東京文化財研究所)「OUVにまつわる課題ー世界遺産委員会での議論を中心にー」

川口洋平(長崎県)「推薦書作成物語-地元の思いと登録基準の狭間で-」

松浦利隆(群馬県立女子大学)「OUVをどう「物語る」か」

平田賢明(小値賀町教育委員会)「OUVと資産保全の課題-長崎県野崎島の事例-」

質疑応答

懇談会・ミニプレゼンテーション：

下村優理(堺市)「推薦書作成にかかる英訳業務」

松岡明子(香川県)「四国八十八箇所霊場と遍路道」